

平成 18 年度 コンクリート委員会 4回常任委員会 議事録

日 時：平成 18 年 10 月 12 日(木) 14:30～17:00

場 所：土木学会講堂

出席者：丸山委員長，町田顧問，石橋，呉，魚本，金津，塚，佐藤（勉），佐藤（良），島，鈴木，十河（代理：近松），手塚，富田，二羽，信田，橋本，松岡，宮川，睦好，渡辺の各委員，下村・服部・三島の各幹事，松沼事務局職員

配付資料

4-0 平成 18 年度 コンクリート委員会 第 4 回常任委員会 議事次第

4-1 平成 18 年度 第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会 議事録（案）

4-2-1 土木学会コンクリート委員会 次期委員長推薦投票について（ご依頼）（案）

4-2-2 コンクリート委員会 内規改定（案）

4-2-3 土木学会コンクリート委員会 平成 18 年度 第 5 回常任委員会開催について（ご通知）（案）

4-3-1 2007 年制定コンクリート標準示方書[規準編]

JIS 規格，土木学会規準および関連規準の編集方針について

4-3-2 同 JIS 規格 目次（案）

4-3-3 同 土木学会規準 目次（案）

4-3-4 同 関連規準 目次（案）

4-3-5 同 目次（案）および編集方針に対する意見回答書

4-4 第 3 種委員会 337 委員会名称の変更について

4-5 平成 18 年度 コンクリート委員会 一般会計 会計状況(10/5 現在)

4-6 平成 17 年度 調査研究委員会の活動度評価の結果について（報告）

4-7-1 「材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会 講習会」会告

4-7-2 「コンクリート構造物の補修，補強，アップグレードシンポジウム」会告

4-7-3 「コンクリート技術の現状と次世代への希望」講習会 会告

4-7-4 「豊かな沿岸を造る生態系コンクリート ―磯焼けを防ぎ藻場を造る― に関するシンポジウム」
会告

4-7-5 「第 2 回 弾性波法によるコンクリートの非破壊検査に関するシンポジウム」会告

町田顧問 講話資料：「示方書雑感」

議事：

1. 委員長挨拶

丸山委員長より，委員会開始にあたっての挨拶があった。

2. 前回議事録（案）の確認

資料 4-1 の平成 18 年度第 1 回コンクリート委員会・第 3 回常任委員会議事録（案）が，中村幹事欠席のため下村幹事より説明された。下記の修正を加え，承認された。

- ・ 102 委員会 名称：「基準関連」→「規準関連」
- ・ 207 委員会 「メーリングリストや」→「ニューズレターの発刊や」
- ・ 331 委員会 名称：「コンクリート構造物中の」→「コンクリート構造物の」
- ・ 335 委員会 「平成 17 年」9 月から活動を開始
- ・ 336 委員会 「平成 18 年 8 月」から活動を開始
- ・ 審議事項(3) 「改定案を作成した」→「改訂案を作成した」
- ・ 報告事項(4) 「JICA」→「日本政府」

質疑および補足説明として、以下があった。

- ・ 審議事項(4)で、複数微細ひび割れ型繊維補強セメント複合材料設計・施工指針（案）の中の試験方法を土木学会規準にしない理由について質問があり、解説が記述されていないことだけでなく、今後実績を積み重ね、新たに提案したいため、との説明があった。
- ・ 橋本委員より、審議事項(5)の施工性能に基づくコンクリートの配合設計・施工指針（案）について、配合設計・生コン選定用ソフトはまだ配布していないが、完成次第、メールの添付ファイルとして配布するなどを予定していること、資料編は、完成予定時期により次回の常任委員会で配布することを予定していることが説明された。
- ・ 橋本委員より、砕石協会からの意見照会については、規準関連委員会で審議し、横田幹事長を通して砕石協会に回答済みであることが報告された。
- ・ 下村幹事より、英文出版物のホームページでの注文対応について、以前から依頼していたが現時点で対応できていないことについて再度事務局に確認したところ、消費税の扱いに多少の問題はあるが、技術的には問題なく、対応するようにしたいとの回答を得たと報告があった。

3. 審議事項

(1) 次期委員長推薦手順の確認

丸山委員長より、資料 4-2-1～4-2-3 を用いて、次期委員長推薦手順の説明があった。

- ・ 丸山委員長は 2 期目であり、任期満了となるため、交代し、次期委員長の選出を行う。
- ・ 資料 4-2-1～4-2-3 は、前回の選出のときの資料において、日付を修正したものである。
- ・ 選出の主な手順としては、郵送で投票（2 重封筒を使用）後、次回の常任委員会で最終的に決定、となる。
- ・ 内規は、コンクリート委員会としては承認済みだが理事会からの承認返答が未着のため、改訂作業中である。今回は従前の内規による手順となる。
- ・ 次回（第 5 回）の常任委員会に欠席の場合も、選出のためには常任委員の過半数の賛同が必要なため、委任状を必ず返送してほしい。

以上の手順が承認された。

(2) 示方書[規準編] 目次（案）および編集方針

橋本委員より、資料 4-3-1～4-3-5 を用いて、2007 年制定コンクリート標準示方書[規準編]JIS 規格、土木学会規準および関連規準の目次（案）および編集方針について説明があった。

- ・ 資料 4-3-1 に編集方針を示している。また、資料 4-3-2～4-3-4 に、それぞれ JIS 規格、土木学会規

準、関連規準の目次（案）の新旧（2007年版と2005年制定版）対照表を示している。さらに、資料4-3-5は、目次（案）および編集方針に対する意見回答書である。

- ・ 編集方針では、修正に伴う年号の付け方や「(案)」の付け方に、従前のルールを適用している。
- ・ 新旧対照表では、下線部が変更箇所である。なお、使用頻度が少ない規準は、従前により〈省略〉としている。関連規準（JISでも土木学会規準でもない規準で、よく使うと考えられる規準）に、いくつかの追加を予定しており、大きな変更点となっている。
- ・ 意見回答書の締切りは11月17日（橋本委員まで）で、今回の目次（案）・編集方針の承認状況に応じて12月1日に改訂案を審議する予定で、目次（案）・編集方針に修正が生じた場合は12月8日の第5回常任委員会で報告する予定である。
- ・ 改訂作業があるため、予算を100万円→150万円と増額を希望する。

これに対し、関連規準における追加で、G. 硬化コンクリート中の14. 土木コンクリート構造物のはく落防止用赤外線サーモグラフィによる変状調査マニュアル（土木研究センター2005）は、全体としては規準というよりは手順を示したマニュアルであること、別途販売されていることから、一部を取り出す、目次には記載するが〈省略〉とする、などの対応が必要になるかもしれないので、確認して対応することとした。

また、コンクリート標準示方書「規準編」の中にJIS規格があるのは奇異に感じるとの意見については、1冊中に入れ込むことで利便を図ったこと、分冊したことの経緯から、審議の結果、現状のままにすることとした。

予算増額の要望について、承認された。収入の見込みもある。

(3) 第1種・第2種小委員会委員追加・変更

なし。

(4) その他

信田委員より、資料4-4を用いて、337委員会の名称変更「ConMat '08 実行小委員会」→「ConMat '09 実行小委員会」について説明があり、これを承認した。

なお、資料4-4中で8th International Symposium on Utilization of High Strength / High Performance Concrete の開催日程を2008.10.27～10.29に訂正した。

4. 報告事項

(1) 予算および執行状況について

横田幹事長が欠席のため、下村幹事より、資料4-5を用いて、予算および執行状況の説明があった。

- ・ 102規準関連小委員会に対し、本日の審議事項(2)により、100万円→150万円に増額する。
- ・ 207国際関連小委員会は、資料4-5中の差引残額よりさらに支出があり、赤字となっているので、これに対し30万円の追加配当を承認した。

以上を含め承認・確認した。

(2) 平成17年度コンクリート委員会の活動度評価結果

丸山委員長より、資料4-6を用いて、平成17年度コンクリート委員会の活動度評価結果について説明

があった。コンクリート委員会は総合評価が A であったが、評価が同じだと同じ予算配当となり、一方で全体の予算が縮小（毎年 3%減）されているため、評価が B→A となると増額するが、コンクリート委員会のように A→A では減額となり、適切な評価が必要であると感じているとのことであった。

なお、舗装委員会は A 評価であったこと、評価結果は HP に掲載されるはずであること、評価 C を 2 回とると委員会を解散させることになっていること（例はまだない）が補足された。

(3) JSCE-KSCE Joint Seminar および関連報告

堺委員より、JSCE-KSCE Joint Seminar および関連報告があった。

- ・ セミナーは 40 名の参加者を得て無事終了した。韓国との今後について、セミナーでは引き続き検討を続けることとして終了したが、ボランティア的な活動では継続は難しいと考えられる。今後、コンクリート委員会としてどのように対応するか、国際関連小委員会で検討する予定である。なお、韓国関連についての予算申請は今のところ予定していない。
- ・ 国際委員会からの助成に対する申請について、現在、英国 Institution of Civil Engineers (ICE) とのジョイントセミナーに向けて、現在、BRE を窓口として交渉が始まったところであり、今後、申請に間に合うよう計画を進めている。ICE とのジョイントセミナー（英国で開催）では参加費が数万円と高額になる可能性が高く、そのために参加者が見込める興味のあるテーマが必要であり、現在はセメント製造技術（廃材利用）、環境関連技術、ASR 鉄筋破断などを提示している。

これについて、建築分野のイメージが強い BRE に加え、橋梁を取り扱うイメージがある TRL もあわせて視野に入れてはどうかとのコメントがあった。

(4) 平成 19 年度出版計画

三島幹事より、来年度の出版計画として、示方書、継手指針、複数微細ひび割れの英訳版の 3 件で提出したとの報告があった。

(5) 第 3 種委員会委員の追加・交代

なし。

(6) その他

下村幹事より、下記の講習会等の紹介があった。

- ・ 資料 4-7-1：「材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会 講習会」
2006 年 10 月 26 日（京都）
- ・ 資料 4-7-2：「コンクリート構造物の補修、補強、アップグレードシンポジウム」
2006 年 10 月 27 日（京都）
- ・ 資料 4-7-3：「コンクリート技術の現状と次世代への希望 講習会」
2006 年 11 月 24 日（土木学会）
- ・ 資料 4-7-4：「豊かな沿岸を造る生態系コンクリート ―磯焼けを防ぎ藻場を造る― に関するシンポジウム」
2006 年 11 月 17 日（土木学会）
- ・ 資料 4-7-5：「第 2 回 弾性波法によるコンクリートの非破壊検査に関するシンポジウム」
2007 年 2 月 6 日（土木学会）

5. その他

呉委員より、2007年9月にドイツで開催の IABSE における基調講演の推薦を任されており、1～2週間以内（10月中）に自薦・他薦いただきたい旨、依頼があった。テーマは統一設計、耐久性、持続可能、モニタリングなどである。これに対し、幹事会で調整し、呉委員に回答することとなった。また、町田顧問より、ここ数年は日本からコンクリート関係の基調講演が出ていないので、出す方向が良いとのコメントがあった。

6. 町田顧問の特別講話

町田顧問から、資料を用いて、「示方書雑感」というテーマで講話があった。示方書の位置づけ、示方書の役割、示方書に対する関わり方、示方書のあり方などについて講話がなされた。技術的な側面を議論する場に示方書としての文言を整える担当委員が配されるカナダの例や、過去の示方書において意味が分からないまま踏襲している項目があることに対する警鐘、モデルコードの重要性、わが国ではそれぞれの研究をオーガナイズして方向性を定める必要性を検討する余地があること、などが述べられた。

次回コンクリート常任委員会は12月8日（金）14：00～17：00に開催する予定。岡村顧問からの特別講話をいただく予定である。

以上